

公立美術館とは何か ④

戦後美術の変容

連載四回目は、鎌倉在住のベテランアーティストであり日本美術会の前代表でもある首藤教之さんに話を聞きました。

富田徹也

社会の中の美術

神奈川県立近代美術館本館閉館問題は、鶴岡八幡宮との契約更新というよりもあくまで神奈川県緊急財政

対策、神奈川臨調の問題です。大船のフラワーセンター。廃止の件では署名運動が大きく進んでいるようです。江ノ島にある女性センターは「新かがわ」22

66号に掲載されている通り、これまでより広さが十分の一に縮小されるにも関わらず「第二ステージに進む運動に発展させたい」と意欲的です。美術館も、共

美術館の役割

た問題を、美術関係者だけではなく広い世代や美術と異なる分野に問えば、前向きな意見が出ると思えます。この前向きで新鮮な、次の時代を展望するような意見こそ、鎌倉市や神奈川県が広い視野で問題を見据えている証拠となり、どこに對しても誇ることが出来るはず。

美術館、特に日本の近代を専門に取り扱う場所は、二つの役割があると私は考えています。一つ目は「歴史を学ぶ、学びの場」です。

現代を捉えることが出来なくなっています。美術館とは、複合的な現代の美術に對應できる多目的空間「オルタナティブ・スペース」になるべきなのです。

日本美術会が主催する「日本アンデパンダン展」は、近年、六本木に2007年に新設された国立新美術館を会場にしています。国立新美術館は生木や水を使っ

新しい切り口の美術館を

時代に即した場

新しい制約があります。国立新美術館の概観の装飾を取れば、戦前から何も進歩していない古い発想のただの箱です。主催室も狭く、人の交流を全く視野に入れていません。このような現状を顧みると、美術館のあり方が問われてきているのです。

若者の発想

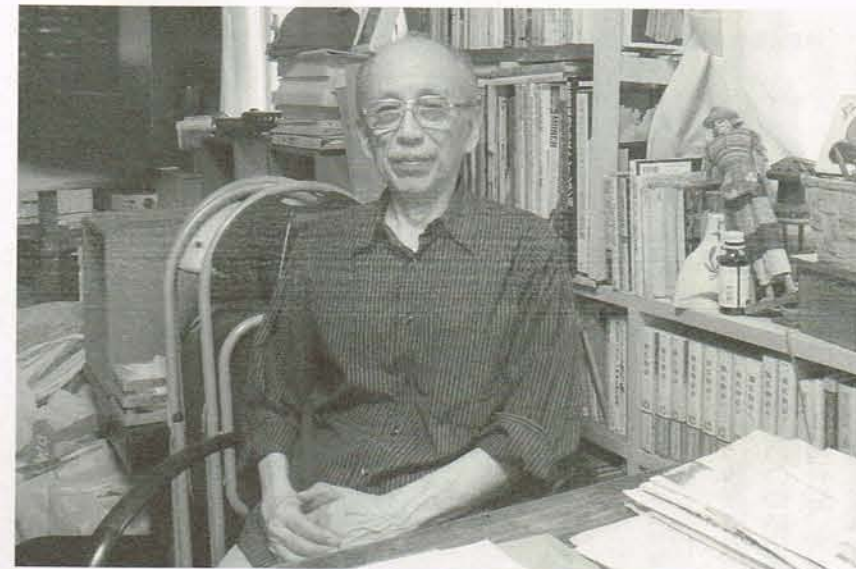
新しい時代に対応するには、下手な官僚主義を再生産してはなりません。そのためには、若者の発想が不可欠です。若者は、美術の外展の仲間たちは、美術館という白い壁面に閉ざされた空間から脱出することを考えていました。

「サンシャイン」歌声が響く街

(監修 デフスター・フレッチャー)

二〇〇七年に大ヒットしたミュージカル「サンシャイン」歌声が響く街」の映画化である。

個々の感情を伝達する。傷付いたけれど理解したい、許したいけどやるせない、許さない言葉にならないもどかしさを表す。更に離れている場所を引き寄せるマクロな視点、ミクロな個人の視線に焦点を当てる撮影など、ミュージカルの魅力を映画ならではの力で引き出している。



日本美術会 首藤 教之さん

首藤 教之

(しゅとう・のりゆき/1932年~)

1950年代後半/岡本太郎・武満徹・花田清輝ら主宰の「現代芸術の会」の活動に参加。

1960年代/石橋別人らと前衛芸術グループ「民美」を起こす。日本美術会に入会、「日本アンデパンダン展」出品開始、以後現在まで出品。会機関誌「美術運動」編集長、会代表など歴任。現在理論部員。

1980年代以降多くのグループ展、その他に参加。「日の出の森にゴミを埋める」ということは一野外展、メールアート展・横浜大岡川野外展・ローリング展・リサイクルアート展・グリーンバイブレーション展・ぷらびだ・各地の平和美術展・横浜ノーウォー展。表現2009展。1995年以後、福岡空襲をテーマにした焼夷弾のインスタレーション作品を各地で20回展示。



《ICON2014》(和紙に墨・アクリル/280×150cm)

始めた「グリーンバイブレーション」という展覧会には、ストリートミュージシャン、段ボールアート、刺繍、切り紙などの作者が「素人だから恥ずかしい」などと言わず集まります。その表現物の群は、ともすれば美術館で見る作品よりも面白いのです。従来の美術という物差しで計ることができなくなっています。

若者はコンピュータのモニターばかり見ているから、表現世界が狭いという気がします。若者は何のどこを見るべきか、他者どのようにに接するべきか、どのような表現方法を用いられるか分らないところがあります。この悩みに對して私は、どのような切り口で応えていくべきかを考え、伝え続けなければならぬと思っています。

の映画化

結婚25周年銀婚式の際に発覚した隠し子のことは、当事者であるロブすらも

旬人彩人 41

「鎌近のこす会」のナビゲーター

古澤潤さん

「鎌近のこす会」のナビゲーターで画家の古澤潤さん(84)に話を聞きました。(宮田徹也)

作品と出会う

古澤さんは1956年に横須賀市内にアトリエと住居を構え、現在に至ります。

「神奈川県立近代美術館(以下、鎌近)はベン・シヤーン、浜田知明、モランディといった作品と出合い、影響を受けた場でした。ここから私の創造力が広がっていったと言っても過言ではありません。」

私の創造力を 広げてくれた 美術館

古澤さんが幼少の記憶として強く

私は地図一枚だけを頼りにイタリアへ行ったことがあります。ポローニヤ行き

作家である、モランディのアトリエがあることを知りました。見知らぬお爺さんに身振り手振りで行ったところ、駅から案内してくれて迎っていたのです。鎌近の展示と画集で複製を眺め

「大原美術館に私の初恋の女性がいます。それはH・マチスが描いた『マチス嬢の肖像』(1918年)です。私は描かれている少女に目を合わせる事ができませんでした。3、4歳の記憶です。美術作品と触れ合った、ナイーブな幼児体験です。何も分らなくとも、幼児期の感動が生涯を支配することもあるのです。」



古澤潤(ふるさわ・じゅん) 1931年〜 武蔵野美術学校卒業。日本アンデパンタン展、ヨコスカ平和美術展、イギリス・ミルトンキーンズ市で作品展示。主に個展で発表し続けている。

新かながわパズル

図書カードを5人に進呈 木屋企画

月はじめ号に掲載

ヒント：合格おめでとう

1	2	3	4	5
A	6	7		
8		9	10	
11		12	13	
		14	15	
16	17		18	19
	20			

①から⑳までの重カッコの文字で、ことばをつくってください。

ヨコのカタ

- ①土地の区切り
- ④庭木や生け垣用の植物
- ⑥ビートルズの曲。〇〇〇〇・アンド・シャウト
- ⑧〇〇の心子知らず
- ⑨はきはきして元気がよい様子
- ⑪身に着けている衣服
- ⑬植物の中心の器官
- ⑭科学の〇〇〇〇試験紙
- ⑯京浜急行普通品川行き、神奈川新町の次は?
- ⑰無事予選を〇〇〇
- ⑱戦闘的な人や団体

タテのカタ

- ②いっそうの〇〇〇〇を期待する
- ③〇〇語々
- ④江戸時代の火消しの持ち物
- ⑤「啄木鳥」の読み方は?
- ⑦プロ野球の新人〇〇〇〇
- ⑧公表しないこと
- ⑩漢字を組み立てている線や点の数
- ⑫独奏者
- ⑮超音速の速度を表す単位
- ⑰〇〇から棒
- ⑱〇〇天竺

締切り 4月15日
あて先 〒231-0037 横浜市
中区富士見町1-2 今一ビル
202号 新かながわ編集部
住所、氏名を明記の上、余白に
お便り歓迎。
前回の当選者
▷原田よう子(横浜市港南区)
▷星一子(座間市)▷廣瀬昭雄
(横浜市保土ヶ谷区)▷谷澤美
枝子(川崎市高津区)▷藤浪公
夫(川崎市多摩区)

ヤマセ	サカタ
ツンドク	ツ
オヤウ	シマ
カニスキ	ユキ
モミヨウ	ジ
トコヤ	ノンキ
チキユウ	モ

前回のこたえ モモノセツク

思いを寄せ合う

「私が住む町の人に『寺には行けるが美術館には行けない、美術館に行くのに何を着ていけばいいのか』と聞かれます。美術館に入ることが日本では海外に比べて、日常になつていないのです。取り澄ました空間とは、美術館の側が創るし、我々が創つてしまっていることも忘れてはならないのです。」

ヒルトン小田原リゾート&スパ (小田原市)

根府川駅から無料送迎バスに乗り、約10分。建屋が見えてくる。地上12階の本館(客室数は167室)は、受付で日帰り入浴プラン(タオル付)おとな1200円を払い、3階の大浴場に5つ分の約24万平方メートルです。本館脇のパーテ...

きるが...

細かい泡。ジェットのパブルと違い上品。小じんまりしたサウナ(10人収容)は熱い。我慢して最初は5分も長く感じましたが、だんだん慣れました。熱い分、水風呂ですっきりできます。室外の露天(3方が壁で窮屈感あり、2m×3m)は付け足して感じます。お湯は無色透...